

新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 学



新年あけましておめでとうございます。読者の皆様、ご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。



新オフィスのある室町東三井ビルディング

昨年3月11日の悲劇的な出来事は東日本太平洋沿岸に未曾有の被害をもたらしました。被災され、今なお艱難辛苦の日々を過ごされている方々には心からお見舞いを申し上げます。

政府、自治体ともに全力で復興に取り組んではいるものの、未だに確かな道筋もつけられず、放射能汚染、電力危機とその余波は、我が国の産業界を6重苦とも呼ばれる状況に陥れ、その構造やエネルギー需給のあり方が問い直されております。国外に眼をむけると、タイ中南部の大洪水で、同国に進出していた大小のメーカー、特に大震災の影響からようやく立ち直りかけていた自動車関連企業にも再び試練を課しております。大自然の猛威と、それに対する人の営みの無力さ、そして謙虚な心と備えがいかに大切かを思い知らされました。

企業にとっての経営環境はますます厳しさを増すばかりです。しかし、これは同時に、これまで培ってきた基礎研究の芽が一斉に花開く好機とも思えます。このような時こそ「技術大国日本」が産官学一丸となって問題を克服し、以前にも増し

て豊かな国づくりへ進むべきと信じております。昨年の11月には、TOP500(スーパーコンピュータの計算速度ランキング)で、日本の理化学研究所が富士通と共同で開発を進めているスーパーコンピュータ「京」が他を圧倒する計算速度で、2011年6月に続き、2期連続で1位を獲得しました。これは、同じ国産のスーパーコンピュータでは、2002年に世界第1位となった「地球シミュレーター」以来の快挙です。また、一昨年、度重なる困難を乗り越えて小惑星のサンプルを地球に持ち帰った「はやぶさ」に続き、再び小惑星の探査に挑む「はやぶさ2」プロジェクトが発表され、暗くなりがちな世相にあって、未来を切り開く明るい話題もありました。

当社は、試薬、ライフサイエンス、化成品、電子材料と多岐に亘る事業構成により基礎研究から先端産業まで幅広く皆様のお役に立てるよう努力を重ねており、新しい技術を取り入れながら社会とともに発展していくことを目指しています。昨年は、当社の国内第6番目の工場として新たに三重工場が稼動いたしました。海外ではシンガポール工場に続き、台湾・雲林の工場も稼働が予定され、新たな生産拠点のさらなる充実により、当社製品の生産能力と緊急事態への対応力が飛躍的に向上するものと確信しております。

本誌「THE CHEMICAL TIMES」は、1950年の3月発行以来、60余年にわたり、親しまれてきました。皆様の足下の一灯となるべく、今後も益々充実した内容で発行に取り組んでまいります。今年も、「最上の品性と、最高の権威と、最大の努力」をもって科学進歩の一翼を担えるよう



なCicaブランド製品を開発し、皆様の元にお届けしたいと思います。

皆様におかれましても、この一年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。

末筆ながら、昨年10月30日には、当社の新オフィスと指呼の間にある「日本橋」が1911年に現在(20代目)の石造二連アーチ橋に架け替えられて以来100周年にあたるということで、「日本橋架橋100年祭」が執り行われました。ここ日本橋界限は年間を通じて数々の催し物が行われ、観光ツアー客の賑わいも目立つ新ビジネス街となっています。まさしく「お江戸日本橋」を中心に江戸の情緒を残しつつも高層ビルが立ち並ぶ新しい日本の「顔」へと変容しつつあります。お近くにお出かけの際は、是非、当社にもお立ち寄り下さい。